

◎注意事項をよくお読み下さい



リソナ 経済フラッシュ

(ECB <欧州中央銀行> 理事会)

2019/12/13

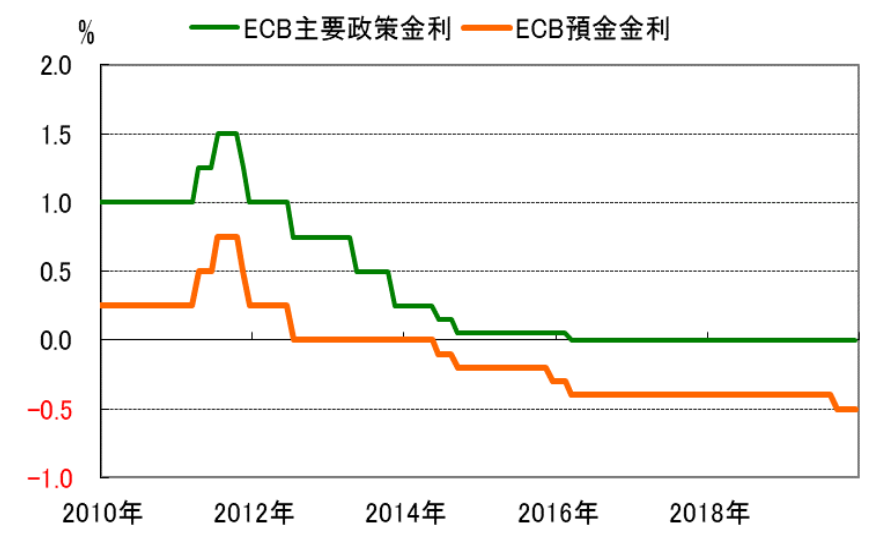
リソナホールディングス 市場企画部

概況

- ◆ 今回の理事会は、金融政策を据え置き
- ◆ ラガルド新総裁は中立に徹し、特定のスタンスを出さず
- ◆ ECBは来年1月より金融政策のフレームワークの見直しを検討開始

- ✓ 12月12日に開催されたECB（欧州中央銀行）理事会では、**中銀預金金利は▲0.50%、主要リファイナンス金利は0.00%、中銀貸出金利は0.25%で据え置き。**
- ✓ **四半期ごとに公表しているECBスタッフの見通しのGDP見通しは概ね変更なし。**今回から新たに公表された2022年は前年比+1.4%となった。**物価見通しも概ね変更なし。**2022年は前年比+1.6%となり、目標とする2%に近い水準には届かない。**リスクについて、ダウンサイドに傾いているものの、幾分薄らいだと上方修正。**
- ✓ フォワードガイダンス（将来の金融政策方針）について、「**インフレ目標の実現がしっかりと見通せるまで**」を据え置き。**満期を迎えた債券の償還金に関して、長期間の再投資を継続。**
- ✓ ラガルドECB総裁体制で最初の理事会。総裁は、記者会見で、自身について「タカ派でも、ハト派でもない。知性の象徴であるフクロウでありたい」とコメント。**特定のスタンスと取られることを警戒し、発言は全般に中立なものとなった。**
- ✓ **来年の1月より、金融政策のフレームワークについて見直し、来年末までに結論づけることを目指すとした。**インフレ目標について2%ではなく例えば1-3%といった柔軟化やマイナス金利の副作用軽減等が検討される見通し。

【ECB政策金利と預金金利】



【ECBスタッフ見通し（12月時点）】

	2019年	2020年	2021年	2022年
実質GDP成長率	+1.2	+1.1	+1.4	+1.4
9月時点の見通し	+1.1	+1.2	+1.4	-
HICP(消費者物価)	+1.2	+1.1	+1.4	+1.6
9月時点の見通し	+1.2	+1.0	+1.5	-

前年比、%

【出所】ECB、Bloomberg

◎注意事項
 当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。